

JCLS 第 53 回学会 シンポジウム 5 (国際)

ベトナムにおける臨床検査分野研究トピック

ベトナム Vu Quang Huy 先生, Univeristy of Medicine and Pharmacy

みなさん、こんにちは。本日、ベトナムにおける Medical Technology における研究トピックを紹介できることを嬉しく思います。ホーチミン市にあるホーチミン医科薬科大学、UMP と略します、から参りました Vu Quang Huy 医師です。ベトナム精度管理センターと UMP の Medical Laboratory Department の長を務め、ベトナム臨床検査教育協議会の会長と、AASMT と呼ばれる ASEAN 臨床検査教育協議会の会長でもあります。

本日は3つの話題をお話します。1つ目はベトナムにおける Medical Technology における主な研究課題についてです。2つ目は COVID パンデミックのコントロール方針についてです。3つ目は日本とベトナム、ASEAN 諸国間で期待される共同研究もモデルについてです。

では、ベトナムにおける Medical Technology における主な研究課題から始めましょう。これはベトナムにおける Medical Technology ネットワークのための精度管理センターです。保健省管轄下でこのセンターは運営されています。我々は保健省管轄の多くの病院や施設、例えばチョーライ病院、トンナ病院のような大型病院、パスツール研究所や国立マラリア研究所のような施設とも共に働いています。この共同活動は、施設利用、センターで働いている専門家人材を南部の州や市の保健部を通して 600 施設以上の病院や州、郡、そして私立病院で活用しています。我々は AASMT、ASEAN、CDC、米国 CAP、WHO、IFCC など多くの国際組織・機関と協力しています。AASMT は ASEAN 臨床検査教育協議会であり、この活動では、教育省の管轄下での活動となります。

私が会長を務めるベトナム国内の臨床検査教育協議会は、29 の教育施設が加盟しており、

AASMT と協力しています。また、日本、オーストラリアなど ASEAN のパートナー国とも協力しています。ベトナムと ASEAN、そして国際組織と共に活動し、2020 年、そして、来年 2022 年にも学会開催を予定しています。これがベトナム臨床検査教育協議会のロゴです。

我々のビジョンは「共に活動し、研究し、発展する」です。我々は Medical Technology と Engineering 分野において学術的交流活動、そのための資金や奨学金、最新の研究や国際学会への参加に関心を持っています。昨年は UMP にて私が会長を務める AASMT の第 5 回大会を開催しました。臨床検査教育、精度管理、研究ネットワーク、Medical Technology 研究などがトピックでした。これは、ベトナム保健省、AASMT、UMP、そして精度管理センターの共催で行われました。UMP 学長からの祝辞がありました。AASMT、UMP、そして精度管理センターの長としての私もスピーチを行いました。この会はインターネットを通して日本、フィリピン、インドネシア、タイ、ミャンマー、マレーシア、カンボジアなど ASEAN 諸国から 300 人を超える国際ゲストを迎えました。そしてベトナム保健省と教育省の長も会に参加を頂きました。ベトナム高等教育協議会の会長も参加しました。北から南まで、全てのベトナム国内の Medical Technology に係る施設から参加者がありました。日本からは、私の長い間の友人である昭和大学の工藤芳子先生、そして、東京医科歯科大学大学院分析科学研究室の大川龍之介先生にもご参加いただきました。

AASMT を概説します。AASMT は 2013 年にタイのマヒドン大学から提案され創設されました。第 1 回学会では全ての国の代表者がサインをし、ASEAN 諸国内の臨床検査教育の調和を総意とする“2013 年マヒドン宣言”が採択されました。ASEAN 諸国内の連携を押し上げるという意図で、プレジジョンメディスンの世紀にあって、新興/再興疾病への国際共同的对応に関して、そして、国際的な臨床検査教育に向けた臨床検査教育のカリキュラムの調和や国際共同研究に関しても AASMT は重要な役割を果たしていると思います。近い将来、全ての臨床検査教育施設は地域標準

に達するでしょう。そのため、Medical Laboratory Technician は ASEAN 諸国内で相互に認証されることとなります。それは、Medical Technology 教育の発展、特に地域内、そして関係する世界中の医療サービスの発展に寄与します。第1回の AASMT 学会は 2013 年 11 月にタイのマヒドン大学で行われました。テーマは「ASEAN の臨床検査教育における標準化、挑戦と傾向」でした。第2回はフィリピン PASMETH 主催で 2014 年 12 月にマニラで行われました。テーマは「話し合い、1つの方向を見つける；国際標準に向けた臨床検査教育カリキュラムの調和」でした。第3回は 2016 年 11 月にタイのマヒドン大学で行われ、テーマは「21 世紀における ASEAN 臨床検査教育」でした。第4回は 2018 年にミャンマーで Medical Laboratory Technology, University of Yangon がミャンマー保健省のもとで開催しました。テーマは、「臨床検査を用いた治療からヘルスケア増進への最大なパラダイムシフト」でした。第5回は我が UMP が保健省のもとで開催し、テーマは、「ASEAN における調和した臨床検査教育の実施の促進」でした。この学会では 4 題の基調講演、8 題の口頭発表、32 題のポスター発表の、計 44 演題の素晴らしい発表がありました。外部精度管理案に関する様々な国からの重要な発表も 32 題のポスター発表の中にはありました。8 題の口頭発表には様々な国から血液学、マラリア原虫、微生物学など様々な分野の専門家による発表がありました。全ての発表要旨は、Med Pharm Research に掲載されています。寄生虫症学に関するイヌ回虫症の血清学的検査の外部精度管理、巨大肝蛭検査の外部精度管理などの研究論文を発表しています。検査技術では外部精度管理のための適切な血液塗抹標本に関する報告などの論文発表も行ってきました。現在は、SARS-CoV-2 が問題となっていますが、2003 年には SARS に関する研究報告も行っています。その他、国際的な研究報告を行ってきました。我々は日本と ASEAN、ベトナムの間、そして ASEAN とベトナムの間でモデルとなる研究ネットワークの構築をしたいと思います。Medical Technology 組織における SARS 呼吸器疾患に対する抗生剤に関する共

同研究、共同論文発表、共同開発を、これは複数組織での複合でも 2 組織でも良いのですが、ASEAN、そしてベトナムの協議会会長としてすぐに行きたいと思います。ポテンシャルのある大学、研究所は、日本のみなさんと共同研究をしたいと考えています。

保健省から示された今後 5 年間の臨床検査の方向性は、伝染性媒体の迅速で正確な診断が含まれており、スクリーニングテスト、早期診断、薬剤耐性、結核やマラリアなどの一般的感染症の解決策に対する研究に重点を当てるとされています。そして、自分自身は外部精度管理に強く興味を持っています。大学の研究室、附属病院検査室、そして精度管理センターでこのモデルプログラムは実施されます。外部精度管理プログラムを多数作成してきました。外部精度管理について詳しく説明します。我々は適切な国際的団体と外部精度管理プログラムにおいて協力を行っています。ここでは我が国の血液学を含む複数分野の外部精度管理プログラムを開発しています。血液標本、輸血に関するものもあります。微生物分野では、塗抹標本のグラム染色、臨床検体の模擬検体もあります。寄生虫分野では、CSF、血液、膿、便など異なった検体があります。分子生物学分野では、SARS-CoV-2 の外部精度管理プログラムがあり、これはとても自負しています。血清学分野にもいくつかのプログラムがあります。これは、SARS-CoV-2 開発におけるパートナーシップの方針です。センターの検査室です。これが我々の外部精度管理の成果です。

大学における教育方法を示します。わが校は開校から 70 年になり、現在でも臨床検査教育では高水準を保っています。ベトナムには臨床検査教育を行うカレッジと 20 校以上の大学があり、5000 名以上の学生がいます。UMP では 1996 年に最初に学士学生を送り出しました。2014 年からは修士プログラムが開講し、2019 年にベトナムで最初の Medical Technology 博士(PhD)を設置しました。ベトナムにおける Medical Technology 教育は、学士、修士、博士の 3 段階となっています。研究課題は、新規感染症のコントロールと予防、慢性疾患、コミュニティヘルスの問題

などです。教育には、協力と共同発展が必要です。センター、そして大学として、私たちの教育コースでみなさんの経験をシェアし教育に携わっていただけるよう、皆さまの参加を期待します。それらには SARS-CoV-2 リアルタイム PCR、迅速検出検査、継続した医学教育などのテーマがあるでしょう。今、申し上げたテーマ以外でもみなさんの経験を私たちとシェアしていただきたく思います。

次の話題は、COVID パンデミックのコントロール方針についてです。ベトナムでは、政府の上位レベルから国家 COVID 委員会が設置されました。この委員会のゴールは、国民の生命を守り、安全と安定を確かなものにする事です。我々は感染を阻止しコントロールし、生命を守り、コミュニティの回復力と安全と安定を創出するためのサーベイとモニタリングの専門家です。そして、調査、回復、その反映をさせました。COVID パンデミックにおいて“5 K”メッセージが発せられました。マスクの着用、消毒、集会を避ける、体調の報告、距離を保つ、です。これにワクチンとテクノロジーが加わりました。ワクチン作成に政府はとても感銘を受けていました。これはベトナム国家主席がワクチン製造会社の Nanogen を訪問したところです。

3つ目の話題は、日本とベトナム、AASMT 間の共同研究モデルについて話します。日本の大学や研究所、ベトナム、ASEAN の大学、センター、学会などとの関係です。研究、調査、専門家の相互訪問、様々な分野における教育、病理学、生化学、血液学、微生物学、分子生物学、遺伝子学などです。センターにおける研究成果は、その一つです。外部精度管理プログラムに関する研究と論文作成に注目しています。外部精度管理プログラムでは、SARS-COVID proficiency テストプログラムの開発もしました。薬剤耐性菌と結核、マラリアと言う一般的感染症の対策案も持っています。新型 SARS-CoV-2 変異株、COVID ワクチン、パンデミックコントロールのモデリング、20 種ウィルスのプロトタイプワクチン、生活習慣病、スクリーニングテストや早期診断などの仕事

もしています。院内感染コントロールのための外部精度アセスメントも開発しており、ポテンシャルのある大学研究所で実施したく思います。我々と共同研究をしたい日本の研究所をご紹介ください。博士課程学生、修士課程学生、学部学生、そして専門家を我々の大学では擁しています。

加えて、附属病院やベトナムの他の病院でも講義を行います。国内、および CDC、IFCC、JCTLM など海外からのアドバイザリーボードや専門家が居ます。

ここに、日本とベトナムの共同モデルを示します。国立チョーライ病院と日本の国際医療福祉大学が造った人間ドッグ：検診センターです。ここでは日本の国際医療福祉大学三田病院、大学成田キャンパス、成田病院からのリモート診断が行われています。この施設は HECI と呼ばれ、テレラジオロジー、テレパソロジーシステムを有し、チョーライ病院と国際医療福祉大学をつなぎ診断レポートを互換しています。この事業は成功しており、ホーチミン市では多くの人が興味を持っています。

また。研修のための専門家の相互訪問も重要です。我が校と、毎年、インターンシップを行っている大学もあり、タイのマヒドン大学などが、その例です。台湾の国立 Cheng Kung 大学ともインターンシップ制度も持ち、AASMT カンファレンスへも参加していただいています。日本のパートナーとも喜んで覚書を交わし、専門家交換、共同研究を進めたいので、可能性のある大学や研究所をご紹介ください。大学院教育においても、ポスドク、インターンシップなど必要なトピックで相互訪問を行っていきたいと思います。

まとめますと、AASMT とベトナム臨床検査教育協議会の会長として、精度管理センター長、そして UMP として、連絡事務所を設置します。ここに E-MAIL アドレスとウェブサイトを記します。

<https://qccump.com/>

このハブが、日本、ベトナム、ASEAN の研究者、大学、研究施設を繋げるハブのとなることを期

待しています。

ご清聴をありがとうございました。

共に COVID-19 に打ち勝ちましょう。ありがとうございました。

* * *